

「試練からの解放」

詩篇 第61篇1節～8節  
マタイによる福音書 第6章13～15節

説教 岡村 恒牧師

「わたしたちを試みに会わせないで、悪しき者からお救いください。」(13節)こう祈りなさいと、主イエスは私たちにお教え下さいました。

最初にこの祈りを教えられた弟子たちは、主イエスの逮捕という試練に会った時、一人残らず主イエスを捨てて逃げ去りました。死んでも従うと言いつつ放ったペテロなど、三度も主イエスのことを知らないと言いました。試みに耐えることが出来なかったのです。試みとか悪しき者というのは、私たちを神と主イエスから引き離す、具体的で人格的な存在のことです。最後の晩餐の席で、主イエスはペテロに向かってこう言われました。「シモン、シモン、見よ、サタンはあなたがたを麦のようにふるいにかけてを願って許された。」(ルカによる福音書 第22章31節)当時、収穫された麦は高くを放り投げられ、中味のないもみ殻がふるい分けられました。同じように、サタンが弟子たちをふるい分けて、一人残らず神から引き離されるように放り出される、そしてこの試練を、神がお許しになったということです。

何の試練も悲しみもない平穏な人生を送らせて欲しいと、私たちは誰もが願います。しかし主イエスは、私たちの弱さをご存じでした。そして、誰もが主を見捨てるような誘惑と試練の中で「こう祈りなさい」とお教えになりました。この祈りは、主イエスはその命を注ぎ出すようにして与えて下さった祈りです。

代々のキリスト者たちは、この祈りを祈るたびに、《荒野の誘惑》を思い出しました。主イエスは洗礼をお受けになるとすぐに、「聖霊に導かれて」荒野でサタンの誘惑をお受けになりました。(マタイによる福音書 第4章1節～11節)サタンは、食べ物の話、神への信頼の話、この世を支配する権威の話をして、主イエスを父なる神から引き離そうとしました。しかし主イエスは、このサタンを御言葉によって撃退し、「サタンよ、退け」と追い払われました。

今朝の祈りに続いて、まるで赦しに関する条件のような言葉が記されています(14節、15節)。私たちは12節で、罪の赦しに関する祈りを教えられたところです。もしこの部分が、父なる神の赦しを得るための条件だとしたら、私たちの誰一人として、神に向かって祈ることなどできなくなってしまいます。私たちの赦しや愛が不十分なもので、神に喜ばれるようなもの

ではないからです。しかし主イエスは、私たちに絶望を与えるためではなく、心から喜んで祈るようにと、この祈りをお与え下さいました。この祈りの中に私たちを包み込むようにして、招いて下さったのです。私たちの不完全な赦しとは違って、神の完全な赦しが、ただ主イエスの命という代償によって与えられているのです。

12節で、私たちは神のこの完全な赦しを祈り求め、受けとめました。そして、神に愛され、赦された者として私たちは、神から引き離されることなどないようにして下さいと祈るのです。私たち自身には、誘惑や試練に対抗する力など少しもありません。サタンが襲いかかって来なくても、私たちは簡単に神を捨て、逃げ去ってしまうような者です。

イエス・キリストなど知らない、と言いつつしてしまう私たちのために、主イエスは十字架にお架かり下さいました。神への信頼を持ち続けることができない私たちの口に、主イエスはこの祈りを与えて下さいました。神に向かって、私たちが試みの中に引き入れて放置するようなことをしないで下さい、と祈って良いのだ、と主イエスが言われるのです。

主イエス・キリストが既に、サタンを撃退し、死も絶望も打ち負かして下さいだったので、もう何ものも、私たちを神から引き離すことなどできなくなりました。神には私たちを捕らえ続ける力があります。神は私たちを愛し続けて下さいます。主イエスは、私たちに代わって誘惑を受け、十字架に架かって下さいました。あの十字架の上に留まり続け、侮辱と痛み、絶望を全て引き受けて下さいました。

洗礼を受けると、主イエスの霊、聖霊が注ぎ入れられて、信仰者の内に主イエスご自身が宿り、共に生きて下さいます。だから私たちは安心して、主に信頼して祈ることができます。

たとえ私たちの現実の生活が弱々しく、神に背中を向けるような生活であっても、主イエスの霊が私たちから奪われることはありません。主の霊が、私たちを父なる神に固く結びつけて下さいます。主は、今この瞬間も生きておられ、激しく働いておられます。主の祈りは、私たちを、この主イエスに固く結びつける祈りです。共に祈り続けながら、主の御再臨を待ち望みつつ歩みましょう。

(記 岡村 恒)